

化学工学会 第47回秋季大会 セッション  
＜材料・界面討論会「材料創製と界面制御の最前線」＞  
報告書

オーガナイザー 長尾大輔（東北大学）  
車田研一（福島高専）  
稲澤 晋（東京農工大）  
荻野 勲（北大）

「部会セッション」募集時、「部会シンポジウム」との区分が必ずしも明確ではなく混乱した部分があったが、「部会名に代表されるような研究・技術領域に関する従来形式の企画」との本部からの説明に基づき「部会セッション」として応募した。本セッションは、口頭発表部門とポスター発表部門で構成され、口頭部門は招待講演2件を含む計34件、ポスターは52件の発表があった。招待講演者としては北大の佐崎元先生と、福島高専の佐藤正知先生の両名を初日(9/9)午前中にお迎えし、それぞれ「高分解光学顕微鏡で見る氷結晶の表面融解」と「工学に残された大きな分野:きわめて長期間にわたる安全確保が求められる廃棄物の後始末—高レベル放射性廃棄物等の処分と材料界面過程—」の題目でご講演いただいた。口頭発表会場は初日から二日目午前まで、材料・界面部会関連の他シンポジウム会場から離れた位置にあり、会場間を行き来しにくい不都合さから、聴講者数は例年より少ないように感じた。しかし翌三日目(9/11)からは会場の不都合さが解消され、前日より多くの聴講者が会場には集まっていた。発表ならびに質疑の方は、討論重視形式（発表12分＋討論8分）ということもあり、深いところまで掘り下げられた議論が行われていた。例年、講演募集時に材料・界面部会では「討論できる方」に登壇を依頼している。年会では多くの学生がポスター発表に移行する中、秋季大会における口頭発表の位置づけ、役割が今後ますます重要になってくる。

以上